岩手大学震災復興推進レター

「岩手の復興と再生に」オール岩大パワーを

vol.35

発行者
国立大学法人
岩手大学
総務企画部総務広報課
〒020-8550
岩手県盛岡市上田3-18-8
TEL 019-621-6015
FAX 019-621-6014
E-mail kkoho@iwate-u.ac.jp

平成26年11月28日発行

http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml　岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

「三陸で夏イチゴを作ろうin田野畑村」を開催しました

10月22日、三陸復興推進機構農林畜産業復興推進部門園芸振興班は田野畑村アズビィ楽習センターにて、「三陸で夏イチゴを作ろうin田野畑村」を開催しました。

園芸振興班は、三陸沿岸の「夏は北海道よりも涼しく、冬は関東内陸並みに暖かい」という気候の特長を活かした作物の生産普及に取り組んでおり、今回は夏から秋にかけて収穫できる夏イチゴの普及を目的に企画したものです。

夏イチゴの梱包・流通事情や栽培方法についてそれぞれの専門家から講義を受け、参加者は熱心に耳を傾けていました。さらに、岩手県・青森県の生産者が栽培した夏イチゴ数種類（なつあかり、すずあかね、デコルージュ）の試食、ハウス見学など、盛りだくさんの内容となりました。

なお、勉強会では夏イチゴの栽培を始めた生産者の方々からもお話いただきました。田野畑村でシイタケ栽培を行っていた鈴木隆昭さんは、原発事故による風評被害により価格が低迷し、三陸復興推進機構岡田益己客員教授に相談いただいたのが縁となり、岡田客員教授の指導のもと、比較的初心者でも栽培しやすい高設栽培装置（もみ殻培地や不織布を組み合わせた灌水するだけの装置で、安価に作成可能）を使用しイチゴ栽培を始めました。栽培装置はシイタケ栽培で使用していた棚に設置でき、後作にも活用できます。また、鈴木さんが育てた夏イチゴは今夏出荷されています。

園芸振興班では、夏イチゴの他にもクッキングトマトや姫かりふ®（早採りのカリフラワー）など、三陸の気候に適した野菜の栽培普及を行っております。興味を持たれた方は、ぜひご相談ください。

（「姫かりふ®」は岩手大学の登録商標です）

甘くて美味しい夏イチゴを試食中

講演する岡田客員教授

園芸振興班では、試験圃場の様子や活動をホームページでお知らせしています。

園芸振興班ホームページ「がんちゃんの三陸野菜畑」
http://iwatedai-s-hort.sakura.ne.jp/

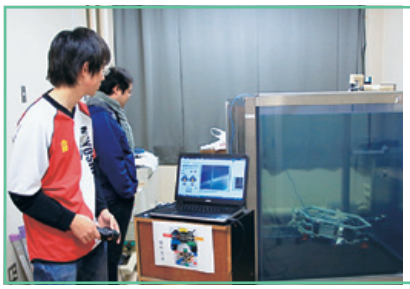
野菜栽培に関するご相談
三陸復興推進課　電　話：019-621-6629
メール：sanriku@iwate-u.ac.hp

三陸を身近に～不来方祭から～

10月18日と19日に開催された大学祭「不来方（こすかた）祭」では、発表・展示や屋台など様々な催しを通して、学生と教職員が取り組んでいる三陸復興推進活動について来場者の方に発信しました。楽しみながらも三陸に思いを寄せる催しになりましたので、その一部をお届けします。

三陸沿岸の気候を利用した夏イチゴ、クッキングトマトや姫かりふ®の作物栽培について紹介しました。実物や作物栽培装置の展示に試食も行い、わかりやすく伝えていました。

三陸復興サポート学生委員会の写真展では、ボランティア活動の様子や現地の風景写真にメッセージを添えたものやメンバーひとりひとりの写真に活動に対する思いが添えられたものを展示し、来場者の目を引きつけていました。



水産関連産業への応用が期待される水中ロボットを、操縦体験することができる研究室。

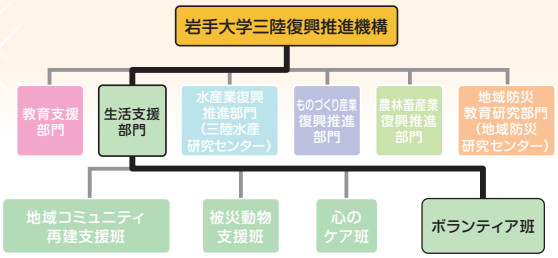
パソコンモニターの画面に写った水中を見ながら、ゲームのコントローラーで上下左右に動かすことができるので、どなたでも簡単に操縦できます。三陸の海で活躍する日も近いかもしれません。

山田町のカキが入った焼きそばや大槌町の焼きホタテに陸前高田市の食品･飲料や雑貨など、三陸沿岸のものを売る屋台が並びました。

屋台の前には大漁旗もあり、三陸沿岸を知る方には懐かしく感じられたのではないでしょうか。

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、学生ボランティアの取り組みを支援している生活支援部門　ボランティア班の活動の一例をご紹介します。



変わる被災地と学生ボランティア

岩手大学三陸復興推進機構　生活支援部門　ボランティア班
楡井　将真（三陸復興推進機構 プロジェクトマネージャー）

現在、学生ボランティアの取り組みは、学生有志から成る「三陸復興サポート学生委員会」によって行われています。この委員会の中には、陸前高田部門・釜石部門・子ども支援部門・宮古部門の4部門に分かれており、それぞれが学生の主体的な動きの中、仮設住宅でのサロン活動、地域行事への参加等を通して住民の皆さんと交流をしながら、日々活動を進めています。

現在被災地では、仮設住宅から災害復興公営住宅への転居が始まったり、自力再建される方が目立ちはじめている一方で、今後の見通しが立たない住民もいたり、今まで仮設住宅で生活を共にしてきた仲間がいなくなることで、どこか寂しさを感じている方もいます。仮設住宅での学生ボランティアの活動は今までも継続的に行ってきましたが、最近活動を通してお話を伺っている中で変化を感じることが多く、今後の学生ボランティアの活動もその変化に合わせた活動に移行する必要があるとともに、これからが非常に重要な局面をむかえるのではないかと考えています。また、変容しているのは仮設住宅だけではなく、様々なかたちで再建した方々、そして再建された方が転居した既存地域にも影響を与えています。それは、再建された方が転居するなどして、急激に世帯数などが増えると言うことで起きるコミュニティの変化です。陸前高田市高田町上和野地区では、以前は約200世帯であった世帯数が、今では250世帯以上となり、建設中、建設予定を合わせると300世帯位にもなります。そうなると今までのコミュニティだけでは十分でなく、今後新たなコミュニティを形成したり、それにあったまちづくりを行う必要性が出来てくると住民の方は話しています。

このように、被災地での課題は多種多様となっており、学生ボランティアとしてどこまで出来るのか、どこまで関わることが可能なのか、正直なところ今の段階ではっきりしたことは言えません。ただ、一つ明確に言えることは、その方々に寄り添い続け、語りに耳を傾けること、そして共に考え、共に同じ目標のもと動き続けることは出来ると考えます。

仮設住宅での活動の様子

地域のお祭りの準備をお手伝いしている様子

釜石サテライトだより

●「看護に生かす会話術～リソースを引き出す極意～」

復興支援の中には、支援者の支援という関わり方もあります。最近では、支援者の疲労、メンタルヘルスということが声高に言われていますが、そのための研修「ちゃんと休みましょう」や「支援者も強いストレスを受けます」というような内容のものは”もういいよ”と、敬遠される場合もあるようです。復興初期では大事な事柄なのでよいのですが、3年経った今では工夫が必要なようです。先日、看護師のみなさん約70名を対象に「看護に生かす会話術～リソースを引き出す極意～」という研修を行ってきました。内容は、質問の力を生かして、その人の新しい人生の物語を作ることについてです。

研修の様子

その研修のねらいは、スキルアップによって仕事の負担を軽減し、参加者自身が元気になれるような演習を入れることでした。結果は、勤務の後で疲れているにも関わらず生き生きとお話をしてくださって、最初に少し固かった表情も、笑顔に変わっていました。講師も元気をいただいて帰ってきました。「メンタルヘルスは大事です」というのはその通りですが、実感が求められているのかもしれません。これからも心のケア班では復興の進展に応じて研修を工夫していきたいと思っています。

興味のある方は、釜石サテライトまで研修の依頼をお願いいたします!

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先　**岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト**
〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
TEL:0193-55-5691(代表)／FAX:0193-36-1610
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

Information

第４回全国水産系研究者フォーラム　これからの水産学の在り方 －水産業を発展させるために－

岩手大学では、東日本大震災により壊滅的なダメージを被った三陸水産業の現状を踏まえ、全国から水産系研究者の知見を結集し、新たな水産資源の活用方策を探るとともに、岩手県の県民・自治体・関係団体・企業・NPOなどの各層と共同で、水産系分野の拠点形成を目指し、東京海洋大学・北里大学と共に「全国水産系研究者フォーラム」を開催しています。

第4回フォーラムは、「これからの水産学の在り方－水産業を発展させるために－」をテーマに、全国水産系研究者と多角的な視点から水産業の六次産業化について検討していきます。

日時：12月20日（土）13:30～16:45
会場：東京海洋大学品川キャンパス　白鷹館1階講義室（東京都港区港南4-5-7）

【プログラム】

●基調講演「新たな持続可能な水産業の戦略について －震災を乗り越えて－」
一般社団法人大日本水産会　専務理事　重　義行 氏

●パネルディスカッション「これからの水産学の在り方 －水産業を発展させるために－」

3大学の研究成果パネル展示も行います。

問い合わせ先　**岩手大学三陸復興推進課**
電話:019-621-6629　メール:sanriku@iwate-u.ac.jp